

## 効果的海外研修プログラムの開発研究（2）<sup>1</sup>

山内ひさ子(国際交流学科)  
山田健太郎(国際交流学科)  
ヘンスリー, ジョール(国際交流学科)  
ミリントン, ニール(国際交流学科)  
スミス, ブラッドリー(国際交流学科)

### Development of Effective Study Abroad Program (2)

Hisako YAMAUCHI, Kentaro YAMADA, Joel HENSLEY,  
Neil MILLINGTON, Bradley SMITH

For the students of the Department of International Relations and Cross-Cultural Communication at the University of Nagasaki, the short term Study Abroad course became compulsory in 2013. In order for students to safely and fruitfully accomplish the course, a three-step syllabus composed of “Pre-study→Study Abroad→Post-study” instructions was developed. In this paper we discuss the results of the questionnaires administrated to students who participated in the course in the 2013 academic year as well as summer of 2014 are discussed. The change of the participating students’ TOEIC scores in 2013 are also reported.

#### 1. はじめに

平成 25 年度から長崎県立大学では全学教育に新外国語カリキュラムが導入された。その中で、国際交流学科の学生は短期の「海外語学研修」が必修科目になった。これまで、「海外語学研修」の教育内容はすべて、学生が参加する研修機関に丸投げ状態であり、国際交流センターの職員が参加学生対象に、諸注意やビザの手配の説明などを行う程度の指導であり、専任教員は研修機関から送られてきた研修状況の報告書を基に単位認定を行うだけであった。しかし、必修科目として学生に履修させるには、本学のカリキュラムにおける「海外研修」という科目の位置づけを明確にし、きちんとしたシラバスに基づく教育を行う必要がある。そこで、平成 25 年度から、参加者が多い英語圏の研修機関で実施する「海外語学研修」に関しては、専任教員とネイティブ特任教員で事前・事後指導を行う体制を整え、海外研修参加者が決定する頃（4 月末から 5 月初め）までに、シラバスを作成し、「事前学習→研修実施→事後学習」から成る、より効果のある短期「海外語学研修」を実施するための指導を始めた。

平成 25 年度までの研修地の開発、トライアル派遣実績、および、学生へのアンケート調査結果については、すでに山内・山田・三重野(2014)で報告した。そこでこの論文では、平成 25 年度と平成 26 年度の夏季に実施した短期の「海外語学研修」の事前・事後学習の指導内容を報告するとともに、参加学生へのアンケート調査結果を報告する。また、平成 25 年度の参加学生に関しては事前・事後における TOEIC スコアの伸びについても報告

する。

## 2. 平成 25 年度の結果による平成 26 年度の「海外研修」指導の改善

### 2.1 「事前学習→研修実施→事後学習」のプログラム

平成 25 年度は資料①のようなプログラム内容を決定し、それに沿って事前・事後学習の指導を行った。事前学習では、海外研修に先立って必要な知識やビザの申請方法や海外生活における注意事項などに関する指導を行った。また、海外研修先で役に立つ自己紹介、日本文化の紹介、現地で学びたいこと、ホストファミリーとの交流で学びたいことなどについて、英語で説明する際に補助素材となるように、写真や絵を用いたスケッチブックを作成させた。実際には資料②のようなハンドアウトを数枚作成し、それを参考にスケッチブックの作成を指導した。その結果、学生は資料③のように、スケッチブックに写真などを用いた紹介のページを作成した。また、現地での異文化体験を学習する動機づけを明確にするため、研修期間中に現地で調べてくるべき課題を示したハンドアウトを渡した。研修終了後の事後学習においては、学生は資料④のような研修体験プレゼンテーション用のページを作成し、スケッチブックを用いながら小グループに分かれて、研修体験を英語で説明をした。

### 2.2 平成 25 年度実施の海外研修に関するアンケート調査

平成 25 年度夏季海外研修参加者を対象に、資料⑤のようなアンケート調査を行った。今回のアンケート調査は、「事前学習→研修実施→事後学習」を初めて導入したので、アンケートの質問内容は、事前学習と事後学習に焦点を当てた。回答者が 11 名と少なかったため、この結果の信頼性はあまり高くないと思われる。しかし、質問 3 の回答では、事前学習は「役に立った」または「大変役に立った」と回答した学生の割合が 72.3% (8 名) と多かった。「そうは思わない」と回答した学生は 27.7% (3 名)、「全くそうは思わない」と回答した者は 0 名であった。「そうは思わない」と回答した学生は、質問 11, 12, 13 で「現地のことについてもっと事前に学習しておきたかった」とか「スケッチブックではなくパワーポイントを用いたプレゼンテーションをしたかった」というような要望を書いていた。「役に立った」と回答した学生でも「現地の情報やホームステイでの留意点についてもっと知りたかった」「事後学習の時間が不足した」というような改善点を指摘していた。これらの学生のコメントを参考に、平成 26 年度の事前・事後学習のシラバスを改善した。

### 2.3 平成 26 年度の「海外語学研修」の事前・事後指導内容の改善

平成 25 年度の「海外語学研修」に関するアンケート調査結果を受け、26 年度の指導は資料⑥のように、事前学習と事後学習を各 1 回ずつ増やした。また、事前学習のうち 1 回を「特別講義」に当て、海外研修に関する一般的な情報、ホームステイや外出に関する留意点などについて、外部講師（元 JTB ロスアンジェルス支店職員の田島喜八郎氏）による講義を実施した。また、履修学生数が多いため、事後指導時にパワーポイントによるプレゼンテーションを全員に行わせることは難しいので、研修先毎にグループ分けをして、それぞれのグループで口頭発表を行った後、春季休暇中または来年度に「海外語学研修」参加予定者対象にスケッチブックを用いた発表を行うという方法を取り入れることにして

いる。このように、アンケート調査結果を平成 26 年度の事前・事後学習の改善に役立てた。今年度はさらに本学の国際情報学研究科の「大学院特別講義」に招聘したペンシルバニア州立大学の Celeste Kinginger 教授に国際交流学科学生対象の「特別講義」を行ってもらい、海外語学研修をより効果的にするコツとその効果を阻害する要因に関する講義をしてもらった。(平成 26 年 7 月 8 日実施)

このように、事前・事後指導内容の改善と、2 回の特別講義との組み合わせにより、短期の「海外語学研修」が一人一人の学生にとってより有意義なものになるように改善を図った。

### 3. 海外研修の教育的成果

山内 (2008) が九州の 36 大学の英語教員対象に行ったアンケート調査では、短期の海外語学研修は、「語学学習のモチベーションを上げること」以外は期待できないという結果を得た。しかし、Kinginger (2013、2009) のケーススタディでは、「海外語学研修」は明らかに学習中の外国語能力と異文化理解力の向上につながることを立証している。異文化理解力は、海外生活体験や自分の周りの人の行動の観察により向上が図れることは容易に推察できる。しかし、外国語力の向上は、一般に、短期の現地における学習で大きな効果があるとは考えにくい。この点について Kinginger は教室内での外国語学習や、辞書や参考図書による学習では学べない語学力を身に付けることができると主張している。例えば、状況に合わせた言語の使用方法がを現地での学習で学び取ることができ、それが海外語学研修の大きな利点であるとしている。<sup>2</sup> また、語学力と異文化理解力の向上を阻害する要因として、Kinginger は次の 3 つの場合をあげている。(1) 海外研修中に学生の両親、兄弟姉妹、友人、恋人、知人などが絶え間なく訪問する場合、(2) インターネットの普及により、学生が一日の大半をネット検索により母国の情報収集に費やしたり、母国の両親、兄弟姉妹、友人、恋人、知人などとメールやスカイプによるやり取りを行って過ごす場合、(3) 学生が母国からの出身者と授業以外の時間を母語で会話して過ごす場合。

本学の短期の海外語学研修では、上記の (1) はなかった。(2) に関しては、本学の海外研修プログラムでは、研修機関で行う語学学習とフィールドワークの時間が多く、帰宅後はホストファミリーとの活動(寮の場合は、寮の学生との行事など)があるため、パソコンの前に座り、インターネットに興じる時間はあまりない。スマートフォンの使用については、事前学習時に、使用料が高額になるため使用を控えるように注意をしたこともあり、長時間の使用はなかったと思われる。(3) の問題点については、本学では 1 研修機関への派遣人数を 15 名以下と制限したため、常に学生が多数で集団行動を取ることができない。他の日本の大学の海外研修は、30 名(九州大学、熊本大学<sup>3</sup>)や 40 名(長崎大学<sup>4</sup>)という単位で、1 つの研修機関に学生を派遣し、その大学の学生のみでクラス編成をしているところが多く、そのような研修では(3)が危惧される。しかし、本学の場合、現地の学生と一緒に授業を受けることのできる研修機関(ボストン、マウント・アイダ大学)や、大半が日本以外からの参加者である研修機関(ポートランド、メルルハースト大学)があり、また、通常の ESL 授業参加の研修機関(オーストラリア、モナッシュ大学、南クイーンズランド大学; カナダ、ヴィクトリア大学)や、日本の他大学の学生との合同授業の研修機関(イギリス、オックスフォード大学ハートフォード校; カナダ、ランガラ・

カレッジ、シアトル、エドモンド・コミュニティ・カレッジ) など、多くの選択肢があり、しかも、本学の学生が集団行動をとりにくい環境になっている。

### 3.1 平成 25 年度参加学生の TOEIC スコアの変化

平成 25 年度の海外語学研修参加者は、シーボルト校では夏季にわずか 25 名であったこと、また、参加者は国際交流学科の学生だけではなく、看護学科の学生や情報メディア学科の学生が含まれていたことなどもあり、研修成果を明確に示すデータを得ることができなかった。しかし、国際交流学科の参加学生の 19 名について、参加前と参加後の TOEIC スコアの平均点を表 1 で比較した。(スコア上昇が 0 であった学生は、海外研修終了後に TOEIC テストの未受験者)

表 1. 海外研修参加者の TOEIC スコアの上昇

学生	研修地	25 年 4 月時点最高点	26 年 2 月時点の最高点	スコアの上昇	事後指導成績
1	Monash	705	705	0	A
2	USQ	495	565	70	B
3	USQ	500	500	0	C
4	USQ	885	905	20	A
5	USQ	610	610	0	B
6	USQ	590	590	0	A
7	Langara	620	660	40	A
8	Langara	920	920	0	A
9	Langara	770	770	0	B
10	Langara	585	585	0	A
11	Langara	700	720	20	A
12	Langara	550	575	25	B
13	Langara	535	560	25	B
14	Langara	645	700	55	A
15	Langara	595	625	35	A
16	Langara	460	525	65	A
17	Langara	415	470	55	A
18	Edmonds	570	645	75	B
19	Edmonds	580	640	60	B
	平均点	617.3684211	645.7894737		

海外研修後に TOEIC テストを受験した学生は、平均 28.42 点のスコアの上昇がみられた。が、この結果から「海外研修」は参加学生の英語力にプラスになっていると考えられるが、参加学生が 2~4 年生の学生であったことや、研修終了後に TOEIC テストを受けなかった学生も多かったため、単に短期の海外語学研修は TOEIC のスコアの上昇につながっていると断言はできない。しかし、3~4 週間の海外経験は、語学力上昇だけでなく学習

の動機づけという側面も大きい。従って、語学力向上に与える海外語学研修の影響については、長期的な検証をする必要があろう。

### 3.2 平成 26 年度夏季海外語学研修参加学生へのアンケート調査

平成 26 年度の夏季休暇中に実施した短期の「海外語学研修」は資料⑥のシラバスに沿った事前学習を実施した。事前学習の最後の時間に事前学習内容に関する評価と、海外研修地で向上させたいと期待する能力に関するアンケート調査を行った。(資料⑦) また、事後学習は、平成 26 年 10 月に 3 回行うことになっているが、その第 1 日目に海外語学研修の体験後に事前学習内容の評価と、事前学習時に向上させたいと考えていた能力が実際に向上できたかどうかという点に関するアンケート調査を行った。(資料⑧) 回答には Likert Scale を用い、5 段階評価の(1. 全くそうは思わない、2. そうは思わない、3. どちらでもない、4. そう思う、5. 強くそう思う) 平均値を出した。(表 2) このような事前の期待と事後の成果の感触に関する調査をすれば、事前の期待値は大きく、通常、事後の数値はかなり低くなるということが想定される。また、円グラフに表し(図 1～図 9)、視覚的にも事前と事後での結果の違いを示した。

表 2. 平成 26 年度夏季海外研修アンケート調査結果

質問番号	質問項目	事前	事後
1	英語力の向上	3.95	3.5
2	英語力を試す	4.40	4.25
3	積極的にコミュニケーションを図る	4.26	3.83
4	楽しくコミュニケーションを図る	4.40	3.61
5	異文化体験をする	4.33	4.69
6	異文化理解力の向上	4.38	4.2
7	チャレンジ精神の向上	4.29	4.19
8	新たな交流のきっかけ作り	4.26	4.25
9	現地の風景や現地の生活体験	4.5	4.61

前述のように、同じ内容の質問項目を用いた、事前の期待値と事後の感想を比較するアンケート調査では、一般に、事前の期待値が高く、事後の評価はかなり低くなると考えられる。特に日本人の場合、自己評価をする場合は「控えめな評価をする」という特徴があるため、時として、事前と事後の評価には時として大きな差がつく。しかし、表 2 の結果を見ると、あまり大きな差がないことが読み取れる。特に「異文化体験をする」と「現地の風景や現地の生活体験」の項目では、事後の平均値の方が高かった。このことは、予想したより現地の生活体験や異文化体験が、大きなインパクトを与えたことを示している。

実際に海外研修により「英語力が向上」したのか、あるいは「異文化理解力が向上」したのかという質問への回答は、学生の感触または印象であり、正確な結果とはいえない。そのため、昨年度と同様に、今後の TOEIC テストのスコアの伸びや、学生の学習態度の変化などに研修の成果を検証する必要がある。

### 3.3 グラフによる事前・事後アンケート調査結果の比較

図1～図9は、表2の9項目のアンケート調査結果を円グラフにして比較したものである。回答者の人数が事前のアンケート（n=42）と事後のアンケート調査（n=36）と異なったため、パーセントによる比較をした。事前の回答結果は図では「事前の期待」というタイトルをつけ、事後の回答結果は「事後の感想」というタイトルで統一し、各質問項目の回答を比較した。

図1は質問1の回答結果である。事前のアンケート調査では、海外研修により英語力の向上を目指そうとする学生が88%（「強くそう思う」9%と「そう思う」79%）と、大多数であることがわかる。それに対して、事後のアンケート調査では英語力が向上したと実感した学生は64%（「強くそう思う」9%、「そう思う」54%）と減っている。3, 4週間の短期の海外語学研修では、語学力の向上を実感することができない学生が3分の1くらいいることを示している。

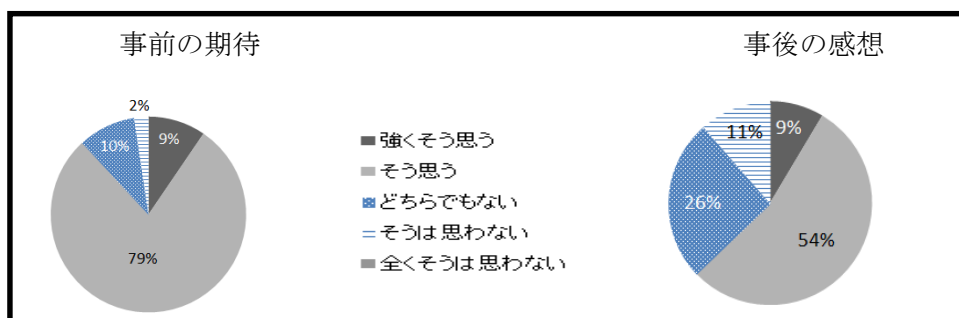


図1. 英語力の向上

図2は質問2の「これまで学んできた英語力を試す」という質問に対する回答である。ポジティブな回答（「強くそう思う」と「そう思う」）をした学生の割合は、事前が93%、事後が92%であり、事前と事後ではほとんど差がなかった。「強くそう思う」と「そう思う」の割合が異なるため、「試す」度合いは事後での感想の方が低かったものの、ほとん

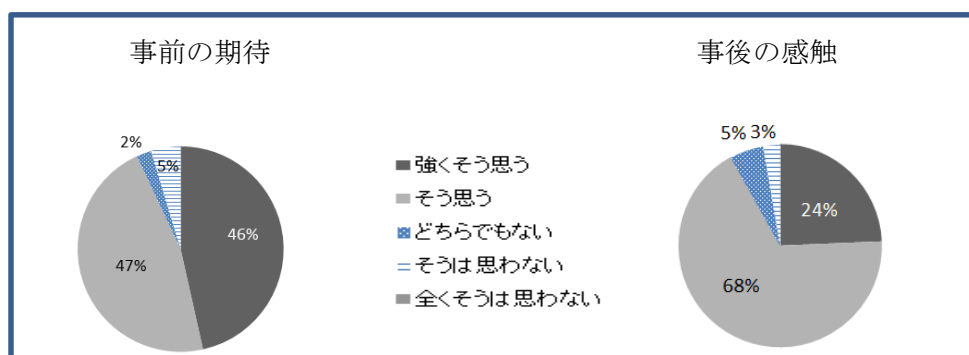


図2. これまで学んだ英語力を試す

どの学生は自分の英語力を現地で試したいと思っていたし、また試すことができたと考え

ていたことが伺える。

図3は質問3の「積極的に英語でコミュニケーションを図る」という質問に対する回答結果である。事前の期待値は大きく、学生の意気込みな感じられる。事後の感触は、事前に意気込んだほど、現地ではあまり積極的に話せなかったという反省が見られる。

「英語でのコミュニケーションを楽しむ」という項目の回答を図4に示す。学生は全員、研修先で現地の人とコミュニケーションを楽しみたいという期待感が強かった(「強くそう思う」40%、「そう思う」60%)ことを示しているが、現実に研修先でのコミュニケーションを「楽しむ」ことができないと感じた学生がごく少数いたようである。しかし、79%の学生は楽しむことができたと回答しており、図3の結果と合わせると、参加学生は積極的に英語のコミュニケーションを楽しんだこと判断できる。

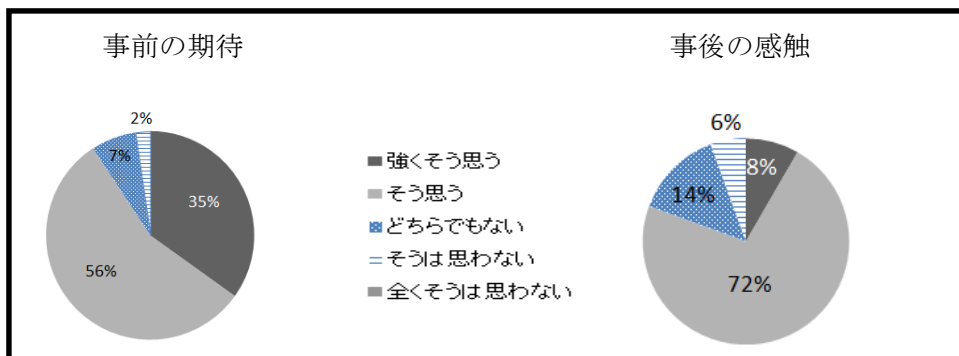


図3. 積極的に英語でコミュニケーションを図る

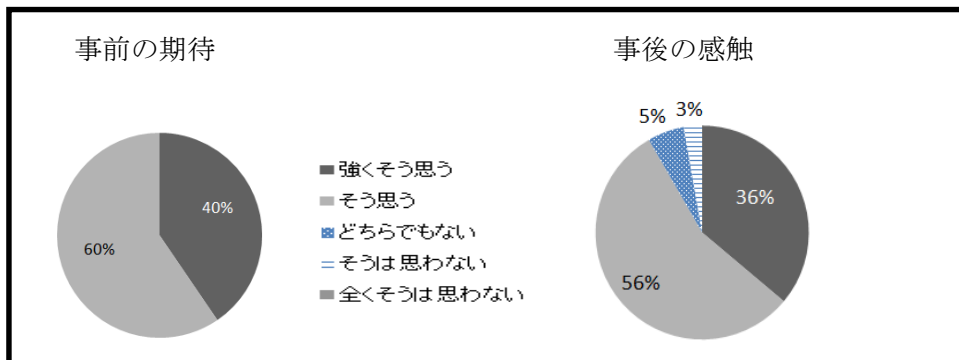


図4. 英語でコミュニケーションを楽しむ

図5は異文化体験についての質問5に対する回答である。この結果は事前と事後ではほとんど変わらなかった。事後の調査では「強くそう思う」という学生の割合(40%)が事前の調査より若干多かったが、事前・事後ともに97%の学生は異文化体験ができると考えていたし、また、期待通りの体験ができたと感じていたようである。

質問6の「異文化理解力の向上」については、図6のように、事前の期待したほど向上したとは感じなかった学生(11%)がいたようである。図1の「英語力の向上」や図6の「異文化理解力の向上」のような能力の向上は長期的な学習や体験により実感できるものであるが、89%の参加者が「異文化理解の向上」の感触を得たことは、やはり、海外研修

に大きな意義があったと考えられる。

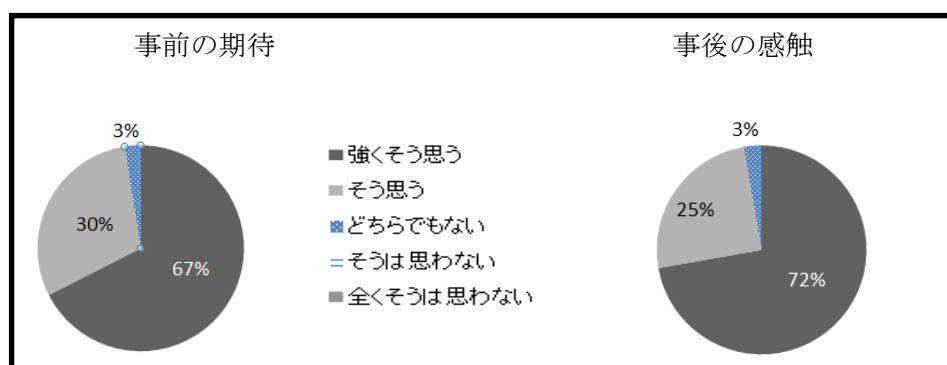


図5. 異文化体験

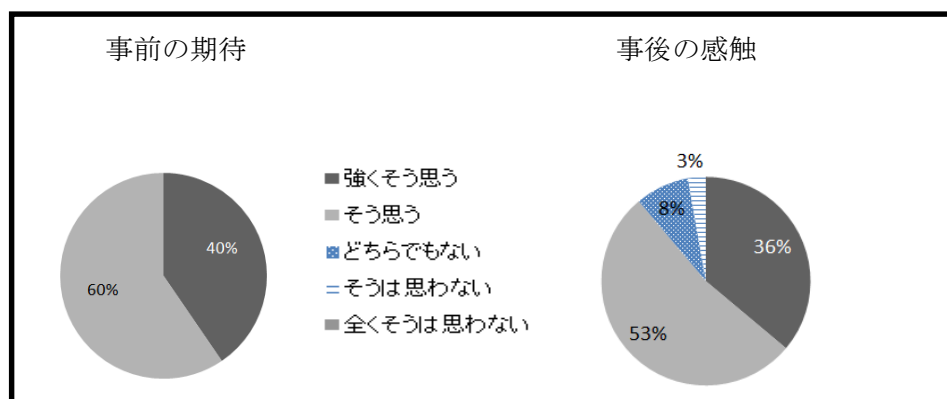


図6. 異文化理解の向上

「チャレンジ精神」は文科省が「グローバル人材」の要素として掲げているキーワードである。<sup>5</sup> 文科省自体は海外体験をすること自体が昨今の「内向き志向」の学生の「チャレンジ精神」を育成することになると考えているようである。図7は「チャレンジ精神の向上」に関する質問7への回答の事前と事後の比較を表す。事前学習では1名が「そうは思わない」と回答し、残り全員が「強くそう思う」(44%)または「そう思う」(54%)と回答している。この学生は引っ込み思案な性格によりこのように回答したと推測される。

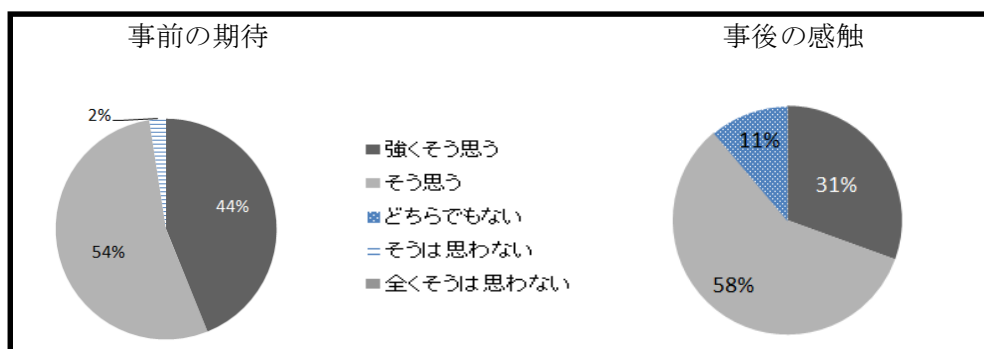


図7. チャレンジ精神の向上



それに対して、事後の回答では「全くそうは思わない」と「そうは思わない」を選択した学生はおらず、89%の学生がポジティブな回答をしている。11%の学生は期待したほど「チャレンジしたとは思わなかった」と回答しているのは、自己反省の意味があるのではなかろうか。

質問8は研修地で新たな友人を作り、今後交流を継続することができるようになるかどうかを問う質問である。事後の回答で「強くそう思う」と回答した学生が47%と、事前の回答（28%）から大きく増えていることが注目される。学生の宿泊先であったホストファミリーや、研修先で出会った人と、今後も交流を続けることを示唆するのではなかろうか。

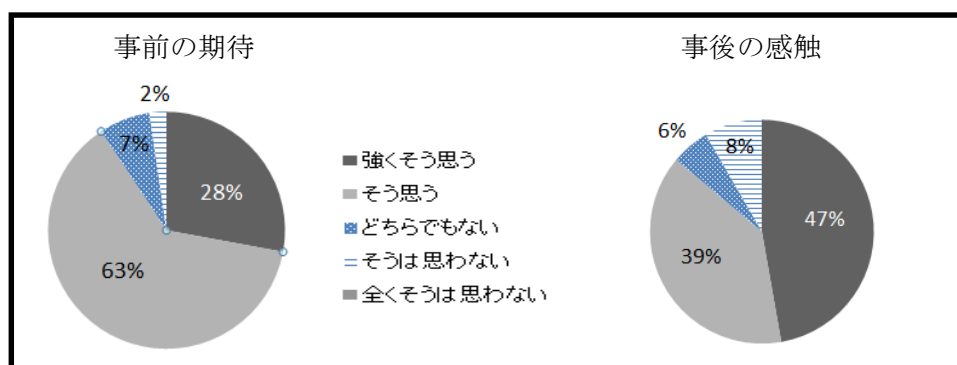


図8. 新たな交流のきっかけを作る

質問9は質問5と似ているが、質問5の方は積極的な体験活動をさし、質問9は「異文化の観察」という消極的な体験活動を問うたものである。回答結果は事前・事後ともにほぼ同じであった。また質問5の回答ともほぼ同じ結果であった。事後の方が「強くそう思う」と回答した学生の割合が若干多かったことは、海外研修に参加することは「異文化体験」であり、また「異文化観察」であったことが分かる。異文化理解において、「異文化体験」も「異文化観察」も必要な要件であるため、質問6の事後の回答結果にかかわらず、海外語学研修において「異文化理解」が一段と向上したと判断できる。

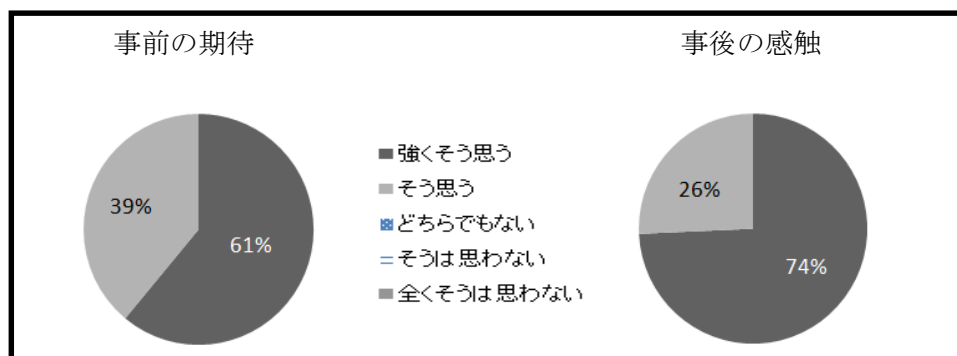


図9. 異文化の観察

質問10は選択肢を設けず、自由記述方式の質問にした。事前学習においては、海外語学研修で期待することを回答してもらい、事後学習では「向上したと思う能力」を記載してもらった。事前学習でこの項目に記入した学生は42名中12名であり、一人当たりの記

述 1.67 行であったが、事後のアンケート調査では 36 名中 27 名が回答し、しかも、一人当たりの平均 2.55 行の記述があった。このことから、学生は海外語学研修を通して積極性が出たことが伺える。また、記述内容についても変化が見られた。事前学習での回答では「おいしい食事」「ホームステイ体験」「自分の英語がどれくらい通用するのか」というような単純な記述であった。しかし、事後学習における回答では、例えば「ヒヤリングが向上した、スピーキングは 3 週間では向上した気はしなかった。しかし、コミュニケーションをする自分のチャレンジ精神は本当に向上したと思う。これが今回の海外研修の 1 番の収穫だったと感じる。」「絶対に英語を話さなければならない状況で、次第に英語を話すことに慣れていった。特にリスニング力が向上した。人に質問をして（相手の答えを）聞き取る練習などをした。今後も英語を話す気かを増やし、積極的に話したい。」「今まで計画性がなかったが、海外研修へ行って、しっかり計画を立て行動することの重要性を学んだので、以前より向上したと思う。」というような記述がみられ、自己分析とその理由づけをしようとする姿が見られる。【( ) 内は筆者による補足】

#### 4. 今後の事前学習の改善に向けて

3.3 で記述したように、事前学習におけるアンケート調査と事後学習におけるアンケート調査の 10 個の質問項目は統一的な内容にし、事前と事後との比較ができるようにしたが、事後学習のアンケート調査には、今後の事前学習の改善のため、質問用紙をもう 1 枚用意し（資料⑨）、事前学習時に行った (1) スケッチブック作成の、(2) 外部講師の講義、(3) 事前学習での注意事項に関する質問をした。これら 3 項目の質問には Likart Scale を用いた回答に加え、改善点などについて自由記述欄も設けた。また、それぞれの質問にはその理由や具体的内容について記述させた。表 3 は「事後アンケート (2)」の質問 3、4、6 に対する回答の平均値である。

表 3 事前学習内容の有効性

質問項目	平均値
作成したスケッチブックは役に立ちましたか	2.92
外部講師の先生の話は役に立ちましたか	3.42
事前学習で聞いた話は役に立ちましたか	3.62

表 3 の結果から、事前学習において、研修先でホストファミリーや現地スタッフと積極的にコミュニケーションを図るための素材としてスケッチブックの作成を課したが、その有効性については、平均値が 2.92 と、3.0 を下回り、学生の評価は指導した教員が想定したほど高くはなかった。これはスケッチブック利用方法や有用性について教員説明が不足していたと考えられる。また、作業内容とその量などについては改善の余地がある。それに比べると、外部講師の講演や担当教員による諸注意に対する評価はそれぞれ 3.42、3.62 と、3.0 を上回ったので、学生が有用性を認めたと判断できる。表 4 と表 5 は事前学習に関する意見、表 6 は外部講師の講演に関する意見、表 7 は海外研修の担当教員の諸注意に対する意見をまとめたものである。学生の記述内容が質問項目の内容と異なっている回答については、合致している項目へ移動した。

表4 事前学習で良かった点【(P) は回答者が複数であったことを示す】

諸注意や持っていくものなどのアドバイスにより、不安に思っていたことを聞くことができた (P)
スケッチブックは自己紹介、現地の人とのコミュニケーションを取る際の話題や質問に対する返答などに役立たせることができた (P)
研修地のことを事前学習で学習したこと (P)
同じ研修地に行く人との情報交換ができた (P)
前回の参加者の話を聞くことができた
ビザの説明をきくことができた

表5 事前学習で改善してほしい点【(P) は回答者が複数であったことを示す】

現地の気候、生活環境、ネット環境、研修機関や研修地のなどの情報をもっと入れる (P)
スケッチブックの作成が大変 (P)
事前学習が6限目に設定しない (P)
スケッチブックは寮ではあまり使わなかった(役に立たなかった) (P)
同じ研修地に行く学生との交流をもっと深めておく (P)
飛行機に乗る時の持ち物の制限、飛行時間、入国審査の手続きなどの情報を多く (P)
現地の通貨に何する情報や、クレジットカードに関する情報をもっと多く (P)
研修先毎の活動を入れる
現地の人種に関する情報
日常会話や挨拶などの練習

表6 外部講師による講演に関する意見

自分の研修地に関する話を聞きたい
現地の人のお話を聞きたい
留学生から話を聞きたい
事前学習は自由参加に

表7 事前学習または参加者へのアドバイス【(P) は回答者が複数であったことを示す】

失敗を怖がらずに何にでもトライする。積極的に行動をする。(P)
自己紹介する時には、具体的に言う。
知らない人に声をかけられた時の対処法を知っておくとよい。親切な人であれば、留学生と伝えればよいが、不審者に対しては日本語を話して逃げる。
夜で歩くのは危ない
海外旅行気分が終わらせない
ホームステイ先のルールについてあらかじめ知らせてほしい

表4から表7までに記述された学生の意見の中には、事前学習時に注意事項として担当者が話した内容(現地の気候、現地の通貨、クレジットカードに関する事柄、飛行機内へ

の持ち込み品など)も含まれていた。また学生自身が自分で情報収集の努力をするべき内容(現地の情報、同じ研修地へ行く学生の交流)も含まれている。従って、事前学習時に実感として湧かなかった問題点を、研修時に改めて実感したのではないかと考えられる。このような学生の意見は、教員にとっては指導の際により強調しておく点として参考になるばかりではなく、今後海外語学研修に参加する学生にとって良い情報になると思われる。

図 10 は海外研修先について満足したかどうかを問う質問に対する回答結果である。

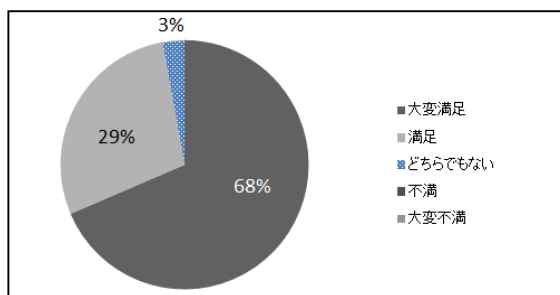


図 10. 研修先は満足でしたか

図 10 の 5 段階評価 (1. 大満足、2. 満足、3. どちらでもない、4. 不満、5. 大満足) の平均値は 4.61 であった。68%の学生が「大満足」と回答し、29%が「満足」と回答している。わずか 3%の学生が「どちらでもない」を選択し、「不満」や「大満足」と回答した学生はいなかった。従って、研修先での語学学習、フィールドワーク、現地スタッフの対応、宿泊先(ホストファミリーや学生寮)などについての学生の評価は良好であったと判断できる。研修終了後に山内はランガラ・カレッジ(平成 26 年 9 月 3 日)とオックスフォード大学ハートフォード校(平成 26 年 9 月 10 日)を訪問し、本学の学生の研修状況について報告を受けた。両機関とも本学の学生に対する評価は大変良好であった。従って、2014 年夏季の海外研修機関のプログラムや現地スタッフの対応は学生にとって満足ゆくものであったと判断できる。

本学が実施している短期の「海外語学研修」は、他大学(例えば九州大学、熊本大学、長崎大学、青山学院大学など)のように、教員が研修期間中に研修機関に張り付いて学生の指導をしていないが、問題もなく夏季の海外語学研修を終了させることができた。これは、事前学習の指導の成果であると考えられる。今後とも研修中に学生が事故などに逢わず無事に研修を終了するため、また、研修が語学力と異文化理解力の向上のために大きな成果をもたらすために、より有効な事前指導を続けることが必要である。

#### 5. 平成 26 年度以降の短期の「海外語学研修」の課題

平成 26 年度以降の課題として次のようなことが残った。

- ①事前・事後指導の内容を 4 月の始めに学生に配布するシラバスに入れる。
- ②事前・事後のアンケート調査項目については、今後改善を加え、短期の海外語学研修参加前と参加後で本人が変わった点や新たに気づくようになった点などを加える。
- ③事前学習における「スケッチブック作成」について改善を行う。
- ④短期語学研修参加者の TOEIC スコアの伸びについても、今後引き続き検証する。

## 6. 終わりに

国際交流学科の短期の海外語学研修は平成 25 年度より必修化されたが、平成 25 年度に参加した学生はわずか 1 名であったため、平成 25 年度に海外研修が TOEIC スコアに及ぼす影響について調査はできなかった。そのため、平成 26 年度も引き続き、海外研修の必修化が及ぼす教育効果については検証していく必要がある。また、「事前学習→研修実施→事後学習」の三段階の指導内容や指導方法などは、今後も学生のフィードバックを受けて改善をする必要があろう。このような学生の指導は、今後も学生が安全に海外語学研修を終了させ、より大きな研修の成果を得られるために継続することが望まれる。

注)

- 1 この研究は平成 25 年度の「長崎県立大学学長裁量研究費」による補助金を受けて行った教育研究である。
- 2 Kinginger (2009) はフランス語で「さようなら」を意味する複数の語句について、アメリカの大学生でフランス語学習者を対象に適切な使用について調査を行い、海外研修経験者の方が海外研修未経験者よりも、どのような状況でどのような表現を用いたが適切であるかをよく理解していることを証明した。
- 3 九州大学および熊本大学が実施している海外語学研修の担当者からの情報。
- 4 長崎大学が実施した海外語学研修の担当者からの情報。
- 5 文部科学省ホームページ、<http://www.mext.go.jp/b/menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/> (平成 26 年 10 月 10 日引用)

参考文献

Kinginger, C. (Ed.). (2013). *Social and cultural aspects of language learning in study abroad*. Amsterdam: John Benjamins.

Kinginger, C. (2009). *Contemporary study abroad and foreign language learning: An activist's guidebook for language educators*. University Park, PA: CALPER Publications.

国際交流センター (2014) 「国際交流学科学年別 TOEIC 最高点リスト及び平均点データ (英語選択者)」

文部科学省ホームページ (2012). <http://www.mext.go.jp/b/menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/> (平成 26 年 10 月 10 日引用)

山内ひさ子、山田健太郎、三重野陽平 (2014) 「効果的海外研修プログラムの開発研究 (1)」 『研究紀要』長崎県立大学国際情報学部。239-253.

山内ひさ子、山田健太郎他 (2013) 「平成 24 年度学長裁量教育研究費報告書：効果的海外研修プログラムの研究」

山内ひさ子、山田健太郎他 (2012) 「平成 23 年度学長裁量教育研究費報告書：国際交流学科の海外語学研修プログラム研究」

山内ひさ子 (2008) 「海外語学研修アンケート調査結果」 JACET 九州・沖縄支部研究大会提出アンケート資料 (非出版冊子)

資料①

資料①  
平成 25 年度海外研修 シラバス

海外研修 (実務) (国公立大学等)  
 担当教員: 山内, ホドソン, ミリントン, スミス, 三浦野  
 批准年度: W204 位

研修の概要: 海外研修の事前学習、海外研修体験、事後学習を行う。事前学習では研修地の情報を入手し、ホームステイ家族への自己紹介文を作成するなど、準備を行う。事後学習としては、研修終了後、研修内容、研修中の体験などについてプレゼンテーションを行う。

研修の目的: 研修地において事象している資源を効果的に活用することにより、理解能力を高める。研修体験を通して異文化コミュニケーションを高める。研修体験について英語でプレゼンテーションできるようにする。

第1回	6月29日 (日)	事前学習 1: Group Introduction, Orientation 授業によるプレゼンテーション、英語のプレゼン体験
第2回	6月30日 (月)	事前学習 2: 研修地に関する情報、研修地での生活環境を知る
第3回	7月1日 (火)	事前学習 3: 自己紹介文の作成、自己紹介文の発表と質疑応答
第4回	7月2日 (水)	事前学習 4: 事前学習 レポート作成、発表、自己紹介文
第5回		研修地での研修
第6回		研修地での研修
第7回		研修地での研修
第8回		研修地での研修
第9回		研修地での研修
第10回		研修地での研修
第11回		研修地での研修
第12回		研修地での研修
第13回		研修地での研修
第14回	10月1日 (日)	事後学習 1: 研修地に関するプレゼンテーションの準備
第15回	10月2日 (月)	事後学習 2: 研修地に関するプレゼンテーション、発表の準備

研修研修の割合:  
 研修先からの研修 80%  
 研修体験 Presentation 20%

研修上の注意: 1年の間の研修から研修できる、TOEFL iBT 80 点以上を義務付けること、研修場所は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、シンガポールから選ぶ。事前学習は学期中の1限目に行う。事後学習は準備期間を行う。

資料②

長崎県立大学  
UNIVERSITY OF NAGASAKI

Name: \_\_\_\_\_

My life at UN

Answer the following questions about your student life

1. What is your major? \_\_\_\_\_
2. What subjects are you taking? \_\_\_\_\_

Write down some information about your weekly schedule here:

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
Morning					
Afternoon					
After class					

3. What clubs or circles do you belong to? \_\_\_\_\_
4. Do you live by yourself? Do you share with other students? Do you live near campus? Write down some information about this: \_\_\_\_\_
5. What do you enjoy the most about your student life? \_\_\_\_\_
6. What do you think is the best part about student life? \_\_\_\_\_
7. Do you work part-time? What kind of work do you do or have you done? \_\_\_\_\_

Now write a short summary of all the information above:

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

資料③ 事前学習における「海外研修」準備のためのスケッチブックの例

MY HOMETOWN

Saga Prefecture is ... a prefecture in the northwest part of the island of Kyushu, Japan!!

The population of Saga About 850,000

Saga International Balloon Fiesta

Saga's Festivals

Arita tuki ichi

Arita yaki

ceramic ware!

Karatsu Kunchi

Many people take the ceramic ware to market in Arita.

The Karatsu Kunchi is held at the beginning of November in Karatsu City!!! This is Saga's most famous festival and attracts around 500,000 visitors every year!!

ABOUT MY HOBBIES

My hobbies are playing the piano and listening to the music.

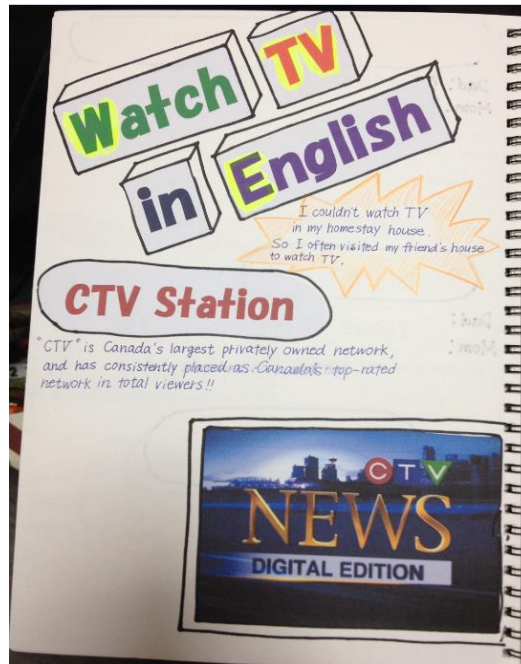
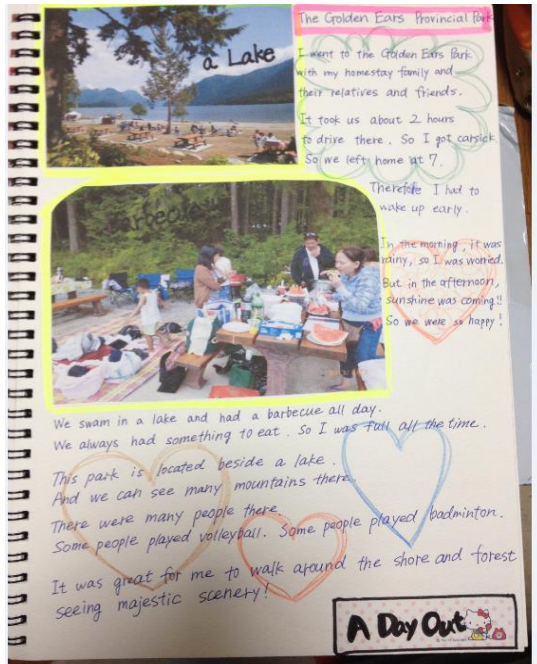
I have taken piano lessons since I was 3 years old. So I have practiced it very hard so far. When I lived in Saga, I used to play the piano all day. And I have composed songs since I was 6 years old.

I love classical music

Especially, Chopin, Mozart, Liszt and so on. I often listen to this music while studying. Then, I can concentrate

Listening to the music

資料④ 事後学習における「体験プレゼンテーション」のためのスケッチブックの例



資料⑤ 平成 25 年度アンケート

平成 25 年度海外留学研修アンケート

- あなたの研修地はどこでしたか？国名と大学名を書いてください。
- 研修中の留学先はどこでしたか？
- (2-10までの質問には3枚の用紙で書き終ったときに口をつけてください)
- 研修の事前授業は研修地での学習に役に立ちましたか？
- 研修の事前授業は研修地での生活(ホストファミリーや現地の人との交流)に役に立ちましたか？
- 研修中に作成したスクラップブックは研修地に役に立ちましたか？
- 研修地のプレゼンテーションの時、あなたが作成したスクラップブックは役に立ちましたか？
- 研修地の授業はあなたの留学学習に役に立ちましたか？
- 研修地の授業は楽しかったですか？
- 研修地の授業は良かったですか？
- 研修地の授業で、もっと内容を学びたいと思ったことを書いてください。
- 研修地の授業で、もっと内容を学びたいと思ったことを書いてください。
- その学年づいたとき、成長してほしいことを書いてください。

資料⑥ 平成 26 年度シラバス

平成 26 年度前期研修 (Study Abroad)  
研修地の研修 (2週間) (国際文化学部)

担当教員: 山内、ミズノ、スミス、三浦野  
担当科目: 英語4

研修の目的: 海外留学研修の事前学習、海外研修地での事前学習では研修地の情報を入れ、ホームステイ先への自己紹介を始めるなど、準備を行う。事前学習としては、研修地での研修内容、研修中の研修などについてグループを作り、プレゼンテーションを行う。

研修の日程: 研修地において実施している研修と実際に研修することにより、運用の準備を兼ね、研修地を通して異文化コミュニケーションを高める。研修地について発表でプレゼンテーションできるようにする。

第 1 回	8月 10日 (日)	事前学習 1: Course Introduction, 海外研修地への事前学習について
第 2 回	8月 21日 (日)	事前学習 2: 現地学習準備 1 (海外研修地への事前学習、自己紹介の準備)
第 3 回	8月 28日 (日)	事前学習 3: 現地学習準備 2 (海外研修地への事前学習、研修地での調査について、研修地の歴史、文化などについて)
第 4 回	9月 4日 (日)	事前学習 4: 現地学習準備 3 (海外研修地への事前学習、研修地の歴史、文化などについて)
研修地研修	7月 14日 (日)	研修地研修による研修地での研修の準備
第 5 回		研修地での研修
第 6 回		研修地での研修
第 7 回		研修地での研修
第 8 回		研修地での研修
第 9 回		研修地での研修
第 10 回		研修地での研修
第 11 回		研修地での研修
第 12 回		研修地での研修
第 13 回	10月 6日 (日)	事後学習 1: 研修地でのプレゼンテーションの準備
第 14 回	10月 13日 (日)	事後学習 2: 月レポート作成による研修地でのプレゼンテーション
第 15 回	10月 20日 (日)	事後学習 3: 月レポート作成による研修地でのプレゼンテーション、発表のまとめ

研修地の割合:  
研修地からの研修 80%  
研修地研修への事前学習、プレゼンテーション 20%

研修地の授業: 1年の研修から研修を受ける。TOEFL 480 以上の成績があること。  
研修地は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、シンガポールから選ぶ。  
事前学習は研修地の研修を行う。事後学習は研修地で行う。

資料⑦ 事前アンケート (1)

平成26年度海外研修 事前アンケート【1】

「短期海外語学研修」に参加したあと、どのように感じましたが、次の5つのスケールであてはまるものに口をつけてください。

- 英語力が向上した。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- これまで自分が学んできた英語力を伸ばすことができた。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 自分が積極的に英語でコミュニケーションを図るようになった。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 現地で新しく知り合った人と、英語でコミュニケーションを楽しむことができた。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 現地で異文化体験ができた。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 自分の異文化理解力が向上した。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 異文化の人との積極的なコミュニケーションをする自分のチャレンジ精神が向上した。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 異文化の人と新たに交友を始めるきっかけを得ることができた。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 現地の慣習や現地の人の生活を知ることができた。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- その他、この度の海外研修であなたが感じたことがあったら、ここに書いてください。

資料⑧ 事後アンケート (1)

平成26年度海外研修 事前アンケート

「短期海外語学研修」に参加するに当たり、あなたは何を期待していましたが、次の5つのスケールであてはまるものに口をつけてください。

- 英語力が向上する。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- これまで自分が学んできた英語力を伸ばす。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 自分が積極的に英語でコミュニケーションを図るようになる。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 現地で新しく知り合った人と、英語でコミュニケーションを楽しむ。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 現地で異文化体験をする。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 自分の異文化理解力が向上する。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 異文化の人との積極的なコミュニケーションをする自分のチャレンジ精神が向上する。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 異文化の人と新たに交友を始めるきっかけを得る。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 現地の慣習や現地の人の生活を知ることができた。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- その他、海外研修であなたが期待することを書いてください。

資料⑨ 事後アンケート (2)

平成26年度海外研修 事後アンケート【2】

「短期海外語学研修」の研修内容および研修地について、お答えください。あてはまるものに口をつけてください。また、自由記述もお願いします。

- あなたの研修地はどこでしたか。
  - シドニー(オーストラリア)
  - メルボルン(オーストラリア)
  - バンクーバー(カナダ)
  - トロント
  - オースタイン(オーストラリア)
  - オーストリリア(南アフリカ)
- 研修学習(スクラップブック制作)が役に立ちましたか。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 研修学習で良かった点と、改善してほしい点を教えてください。
 

◎良かった点

◎改善してほしい点
- 研修学習で、英語講師の先生の存在が役に立ちましたか。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 研修学習で、今回までの研修で学んだ学生と、現地の地元25人の人に会ってもらいましたが、他に誰と会ったかという人と何人かの内容を自由記述してください。
 

◎
- 研修学習で得た知識が役に立ちましたか。
  - 全くそうは思わない
  - そう思わない
  - どちらでもない
  - そう思う
  - 強くそう思う
- 研修地について満足でしたか。
  - 大変満足
  - 満足
  - どちらでもない
  - 満足
  - 大変満足
- Tで1または2を選んだ人は、どのような点が満足だったかを書いてください。
 

◎
- Tで5または6を選んだ人は、どのような点が満足だったかを書いてください。
 

◎
- 今後の海外研修のために、研修学習についてのアドバイスや、研修地へのアドバイスが有効に自由に書いてください。

Thank you for your cooperation.